

令和6年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和7年2月27日(木) 14:00～16:00

2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂

3. 出席者(敬称略)

(委 員) 9名
(事務局) [文化振興・文化財課]1名
[考古博物館]7名

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 館長挨拶
- (3) 議事
- (4) 閉会

5. 会議に付した事案等について

- 令和6年度 考古博物館事業経過・予定について【公開・公表】
- 令和7年度 考古博物館事業予定について【公開・公表】
- 考古博物館利用状況について【公開・公表】
- その他
令和8年度 特別展について【非公開・非公表】

6. 非公開とした理由

令和8年度特別展について

山梨県情報公開条例第8条第5号及び6号に規定する事項について審議等を行うときに該当するため(指針第3条第1項)

7. 議事録の概要

- 令和6年度 考古博物館事業経過・予定について
・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委 員)「ものづくり教室～チャレンジ博物館～」、「ものづくり教室～原始古代の技に学ぶ～」、「原始・古代の技術体験学習」の違いは。

(事務局)「ものづくり教室～チャレンジ博物館～」は子ども(親子)を対象にした無料のものづくり教室、「ものづくり教室～原始古代の技に学ぶ～」は大人を対象にした有料のものづくり教室、「原始・古代の技術体験学習」は個別の要望を伺いながら団体や少人数を対象に実施する体験学習である。

(委員) 風土記の丘研修センターで実施したイベント「秋のふれあいまつり」や「古代米でもちつき」は参加者数が多いが、これは1日で実施したイベントか。

(事務局) 1日で実施したイベントである。これらのイベントでは、たくさんのブースを用意しており、多くの方に参加いただいている。

(委員) イベント実施により多くの方に来ていただく機会を設けてほしい。

(委員) 海外博物館との交流事業として行った新北市立十三行博物館(台湾)でのイベント参加について、当該イベントは2日間で3万8千人もの参加があるのか。

(事務局) 人口約400万人の大規模都市で開催されたイベントであることや、テレビ等を使った広報により、台湾全土からの参加がある大きなイベントであり、有意義な交流となった。

(委員) 考古学講座や館長講座について、アーカイブ公開はしているのか。

(事務局) 著作権等の関係もあり両講座ともアーカイブ公開は実施していない。館長講座については、多くの方に視聴いただき、将来的に当館への来館を促すことを目的として、講座をWEB中継している。

○令和7年度 考古博物館事業予定について

- ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 学校への紙媒体での広報が難しくなっている中、工夫したこと、または、今後考えている方法はあるか。

(事務局) ペーパーレスの流れもあるが、紙媒体の広報が有効だと考えており、館から学校に直接資料を送付する方法を検討している。

(委員) 親子で参加できるイベント等の広報については、PTAと連携した広報の可能性を事務局で検討してほしい。

(委員) 縄文王国山梨について、以前行っていた甲府駅北口でのイベントの実施や、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の協議会との連携は予定しているか。

(事務局) 予算の都合もあり縄文王国山梨のイベントが以前のように実施できていない状況だが、他館との連携や、特別展関係のイベントを実施する中で、縄文王国山梨をアピールしていきたい。

(委員) 関連して、山梨県内の日本遺産の活動について伺いたい。

(事務局) 山梨県には4件の日本遺産があり、各協議会を中心に活動を進めているところ。「星降る中部高地の縄文世界」の最近の活動については、今年の1月に、県と関係団体とでシンポジウムを共催し、450名以上の方にご参加いただいた。今後も民間団体等と連携する中で活動を推進していきたい。また、日本遺産の協議会に加盟する構成団体それぞれがインバウンドも視野に入れた事業等を展開している状況。さらに、長野県と共同で事業ごとにワーキンググループを立ち上げ、課題等に迅速に対応できる体制整備も進めている。

(事務局) 来年度、長野県主催で、下諏訪町の公益財団法人と連携した日本遺産を巡るツーリズムも計画されている。

(委員) マチナカ博物館の外部出張展示について、令和6年度は小江戸甲府の夏祭り時に実施したとのことだが、信玄公祭りの際に実施してはどうか。全国からの観光客が来るため効果的だと思う。

(事務局) マチナカ博物館の事業ではないが、信玄公祭りの開催時期に、県デザインセンターにおける展示を実施予定。県外からの観光客が多い時期に効果的に当館や山梨の縄文文化についてPRを行いたい。

(委員) 山の洲文化財交流事業について、新潟県との連携を検討してほしい。

(事務局) 今年度は、新潟県にて行われたヒスイ関係の企画展示の際に、当館学芸員による講演を行う等の交流を行った。次年度については、幹事県である静岡県の意向も踏まえて、近隣県との交流事業を展開していきたい。

(委員) 風土記の丘で星を見る会について、R7年度の実施場所は決まっているのか。

(事務局) 現段階では決まっていない。公園管理者とも協議し、決まり次第HP等で周知する。

(委員) ガイドアプリ「AR 古代展望 よみがえれ!甲斐風土記の丘」について、新しい企画を考えているか。

(事務局) アプリ内容のアップデートについては、予算的な問題もありすぐに実施することは困難な状況。今後、ARアプリをイベントに組み込むこと等を検討し、多くの方に当該アプリを活用いただけるよう工夫していきたい。

(委員) 展示について、学芸員による解説があると、理解が進み、より楽しむことができると感じている。そのような活動を引き続き実施してほしい。

(事務局) 承知した。

(委員) 他館での取り組みとして、トイレの個室側内側の掲示を活用している例があったので参考にしてほしい。また地域や学校と連携し、地域の子どもの手書きのパネル等を活用している例も参考になると思う。地域との連携により、さらに博物館が身近なものになると思う。

(事務局) 参考にさせていただく。

○考古博物館利用状況について

- ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) HP多言語化について、どの国の言語に対応しているのか。

(事務局) 英語や中国語をはじめ主要言語に対応している。

(委員) 広報は非常に重要であり、十分な広報の実施には費用が必要になる。適切に予算を確保してほしい。

(事務局) 今後も必要な予算を要求していく。

(委員) 広報について、紙媒体の広報は非常に有効だと思う。さらに勾玉等の具体物があるとより効果的。また、学芸員による出前事業を実施いただくとその学芸員のいる博物館に行きたくなると思う。

(事務局) 今後の広報やPRの参考にさせていただく。

(委員) 地域に博物館があるというのは住民にとって貴重なこと。地域とも連携し、適切にPRし、たくさんの住民に来館いただき、持続可能な館の運営を行ってほしい。

(事務局) 地域と連携した運営を意識していきたい。

(委員) 地理的な条件から、郡内地域の利用者が少ない状況である。郡内方面の文化財に対する関心を醸成する意味でも、郡内方面での出張展示やイベント開催を検討してほしい。

(委員) 規模の小さい市町村では、自市町村のみではミュージアムの活用が進まない状況もある。遠足等の機会を活用し博物館を訪れるような活動に加えて、郡内方面のミュージアムとも連携する中で、出張展示やイベントが開催されると良いと思う。

(事務局) 検討していきたい。

(委員) 利用する学校の傾向は。

(事務局) 当館での学習に意義を感じてくださる学校や先生を中心に、口伝え等で輪が広がっている状況。

(委員) 先生方の研修の場での情報提供が効果的だと思う。

(事務局) 参考にしたい。

(委員) p.13の利用者数について、前年度の状況を記載し、今年度との違いや要因を説明してほしい。

(事務局) 承知した。次回委員会資料で提示する。

(委員) p.14の観覧者過年度比較について、10年前、20年前等の長期的なトレンドが分かるグラフを示してほしい。

(事務局) 承知した。次回委員会資料で提示する。

(委員) 小中学校時代に来館機会ができると良い学びの機会になると思う。学校との連携や広報を適切に行ってほしい。

(委員) 学校との連携に加えて、地域との連携も重要だと考えている。地域単位で、教員OB等に指導員になっていただき、放課後や土日に地域の子どもに授業を行う活動がある。指導員が課外

活動で博物館等を訪れることも可能であり、このような活動との連携も効果的だと思う。
(事務局) 今後の運営の参考にしたい。

(委員) p.17 外国人利用者数の備考欄に記載されている国別割合が誤っている。

(事務局) 修正する。

(委員) 承知した。今後の運営において、外国人利用者の国別割合も意識した戦略も必要になってくると思う。

(委員) 令和7年度の特別展は共催する予定はあるのか。

(事務局) 早稲田大学との共催で実施する。

(委員) マスコミと連携した効果的な広報を実施してほしい。

○令和8年度特別展について 【非公開】

以上